

## 【 研 修 報 告 書 】

報告者：創政クラブ

橋本正彦、水門義昭、伊東寿充

### 1. 研修受講日

平成30年2月9日（金） 14：00～16：30

### 2. 研修名

「議員が知っておくべき財政の話 基礎編2」

講師：程岡 俊和

経歴 1974年 大阪府寝屋川市役所入庁  
2007年 企画財政部次長兼財政課長  
2010年 経営企画部長  
2011年 人・ふれあい部長  
2012年 財務部長  
2013年 理事兼財務部長  
2014年 会計管理者（理事待遇）  
2016年 公益財団法人寝屋川市保健福祉公社  
常務理事兼事務局長

### 3. 研修目的

地方自治体のリアルな財政事情から、地方交付税等国との関係性も理解した上で、今後の政策提言、予算化要望、一般質問等に反映し、効率的な財政運営に対する視点を養う為。

### 4. 研修内容

#### ①地方交付税の徹底解説

イ. 地方財政計画とは

ロ. 地方交付税とは

(1) 地方交付税の性格

(2) 地方交付税の総額

(3) 地方交付税の種類

(4) 普通交付税の額の決定

ハ. 普通交付税の算定

(1) 基準財政需要額の算定

## (2) 基準財政収入額の算定

### ②臨時財政対策費のカラクリと議会答弁の真実

イ. 臨時財政対策債とは

### ③地方債と基準財政需要額の関係事例を開設

「地方債」

イ. 地方債の役割

(1) 主な役割

ロ. 地方債の法制度

(1) 地方債を起こすことができる地方公共団体

(2) 地方債を起こすことができる経緯

ハ. 地方債協議制度

二. 地方債の資金と形態

(1) 地方債の資金

(2) 地方債の形態

(3) 資金区分の振替要請

ホ. 地方債の年間スケジュール

### ④補助事業に対する交付税措置

### ⑤予算化されやすい予算要望とは

## 5. 考察

議員活動において政策の提言、或いは予算化を要望するにあたっては、地域の抱える課題への対応や、市民目線での立案、専門的な見地からの考察等と同様、国県を含む財源論からの観点も不可欠であろう。地方においては特に人口減少における活力減退と同時に、自主財源不足と合併算定替え配分の段階的縮小による慢性的な財源不足が予測され、地方自治体運営におけるより効率的な無駄のない予算配分と執行は、全市民にとっても最優先として求められる課題であり、不断の見直しも必要な基幹構造であるといえる。そういった意味合いにおいては、高山市において一般財源の三割以上を占める地方交付税の構造を理解し、その性格を見極める事も地方議員にとって必要なステップであると感じる。

今後、公共施設の維持にあたっては、高山市においても大きな課題として取り組みが進んでいるが、高山市の財政状況や様々な将来予測データ、市民ニー

ズを把握し、これにあたるうえでは、やはり維持管理財源の捻出が争点ともなるが、将来世代への負担抑制も当然視野に入れる中、対象や事業規模によっては、地方財政措置の拡充に伴う起債を選択肢のひとつとして考えていく必要もあるのではないか。充当率次第では、自主財源の10倍の事業を展開できるといった考え方もできる為、より経営戦略的なアプローチも求められてくるものと感じる。併せて公共施設の統廃合に伴う、単位費用の見直し影響なども考慮したい。堅実な財政運営が一丁目一番地にある以上、血税を1円たりとも無駄にしないといった市民の付託にこたえ得る、財政運営が求められるのは確かなことであるが、より有効な運用に伴う市民生活の向上と、世代間の負担をうまく分散させるバランス感覚、縮小させる為だけの施策にらず、予算を生み出すといった考え方も重要であると考察する。